

CSR委員会社外アドバイザーからのご意見



高 巖氏

麗澤大学 経済学部 教授
大学院 経済研究科 教授

妥協のない誠実さ

三菱地所グループは「まちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献する」という基本使命を掲げ、CSR経営に取り組んでいる。ただ「まちづくりを通じて」という表現は、いわゆる「不動産事業を通じて」と同意ではない。それは、より広範かつ多面的で、環境と社会に優しく、夢にあふれる活動と言うべきであろう。この点を広く伝えるため、本報告書が発行されたと言って良いはずだ。

過去1年間、社外アドバイザーとしてグループの取り組みを見てきたが、「CSR経営にブレはない」との印象を持っている。それは、グループが「誠実な行動」「お客さまからの信頼」「活力ある職場」の3つの柱を、事業活動においても、CSR活動においても、貫徹させているからである。

もともと、3つの柱は、会社が常に完璧であることを保証するものではない。昨年度、残念なことに、三菱地所レジデンスは、販売中のマンションにおいて、施工上の不具合を発見。施工業者による不手際であったが、三菱地所側はこの事実を契約者に開示し、説明を行った上で、マンションの建て替えを決定した。

評者は、企業に必要なのは「妥協のない誠実さ」にあると思っている。三菱地所グループのこの対応を間近に見たことで、改めて「まちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献する」という言葉が単なるスローガンではないとの確信を強くした。



江上 節子氏

武蔵大学 社会学部 教授

グローバル社会との約束へ踏み出す覚悟

企業は、今日、グローバルに拡大し、政治、経済、人権、環境、技術等の問題が複雑に絡み合う社会・市場の中で事業活動を行っています。財務情報の開示については、法改正を通じ健全性の担保の仕組みが、説明責任を果たすべく進展してきました。しかし、財務情報に表れない要因で社会問題となる事象は続いています。意思決定、企業理念、経営理念、組織文化等に関わる非財務情報が極めて重要となります。また、企業の持続的成長には、海外売上比率の相当な向上が不可欠です。日本企業は、グローバル・コーポレート・ガバナンスへの整備が急務です。

三菱地所は、本報告書で、その決意を記しています。長期計画に表明した経営と一体のCSR活動の推進、それを企業価値へと昇華させる経営方針です。企業活動を通じて、グローバルな社会課題の解決へ挑戦し、そのことを通じて、経済活動を成長させていくというスキーム。具体的なCSR活動については、筆者も8年間にわたり、その報告や現場を垣間見てきましたが、それらの丁寧な実践と成果、持続する意思の上に、今回の決断が見て取れます。

新たなCSR経営は、グローバル社会とのまさに“約束”であると言えます。

ご意見をいただいて



吉田 淳一

三菱地所(株)
常務執行役員
(環境・CSR推進部担当)

CSR委員会社外アドバイザーの高巖先生、江上節子先生には、当社グループが社会から期待されている課題について、その都度、社会動向を踏まえた具体的かつ的確なご意見、ご指摘をいただき、経営と一体のCSR活動を持続的に発展させる上で大切な気づきにつながっています。

ここ数年、本業を通じて社会課題に取り組み、新たな価値を創造して企業収益にも寄与させる取り組みとしてCSVの考え方が浸透してきていますが、私たちの「まちづくりを通じて社会に貢献します」という基本使命は、共通価値の創造そのものであると考えております。

今後も、ステークホルダーの皆さまの期待と信頼にお応えし、まちづくりを通じて、当社グループと社会の持続可能な発展をめざすCSR経営を誠実かつ真摯に実践してまいります。